学校番号	1006

令和８年度　体育科

教科	体育	科目	ｽﾍﾟｼｬﾘﾃｨｽﾎﾟｰﾂⅡ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では、体育の授業から一歩踏み込んだ専門的な内容を中心に取り組みます。
・部活動などで習慣的に運動に取り組んでいることを前提に実施します。
・スポーツテストを実施し、自らの身体能力について知ったり、向上させるためにはどうすればよいか考えて取り組んだりします。
・球技（ネット型、ゴール型、ベースボール型）において、その競技の特性を理解し、自ら練習メニューを考えたり、審判法を勉強し身に付けたりします。
・陸上競技では、走・跳・投それぞれの種目に挑戦し、計測を実施します。
・持久走では、体育の授業よりも長い距離を走ったり、インターバル走に取り組んだりします。

2　学習の到達目標

自らの運動能力の向上や、専門種目の技能向上を目標に、自ら考え取り組む力を育成することをめざす。
(1) 球技（ネット型、ゴール型、ベースボール型）を選択し、技能だけでなく審判法や練習法について学び、自ら実施できる力を身に付ける。
(2) スポーツテストの実施方法を身に付け、自らの身体能力が同年齢平均に対してどの程度なのか知る。また、記録向上するためにはどのようなトレーニングが必要かを考えられるようになる。
(3) 陸上競技において、投擲種目や跳躍種目などの実施方法を学び、安全に取り組むことができる力を身に付ける。また、計測や審判法についても理解し、実施できるようになる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	球技・陸上競技における専門的な技能や戦術、ルール、審判法を身に付け、自ら実施する力を身に付けている。	自らの身体能力について深く知り、体力の向上を目指すにはどのようにトレーニングに取り組めばよいか考えたり、技能向上のためのコツを言語化し、ノートにまとめたり、他の人に伝えることができるようになる。	スポーツの実施に際しては、競技に取り組むだけでなく、支える・審判する存在を理解し、自らすすんで審判に取り組んだり、競技の運営に必要な手助けをしたりすることができる。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	スポーツテスト	新体力テストを実施する	a:各項目の記録を計測する。 b:記録を向上させるためにはどうすればよいか自ら考え、実践することができる。 c:計測、記録など、自ら実施するだけでなく、他の人の実施の手助けができる。	計測	ワークシート	観察
1学期 2学期	選択球技①	以下の中から1つを選択し、実施する。 (バスケットボール、バレーボール、サッカー、ソフトボール、バドミントン、テニスなど)	b:技能やルールを覚えたり、言語化してノートにまとめることができる c:試合の実施において、運営や審判に積極的に取り組むことができる。		提出ノート	観察 振り返りシート
2学期	選択球技②	以下の中から1つを選択し、実施する。 (バスケットボール、バレーボール、サッカー、ソフトボール、バドミントン、テニスなど)	b:技能やルールを覚えたり、言語化してノートにまとめることができる c:試合の実施において、運営や審判に積極的に取り組むことができる。		提出ノート	観察 振り返りシート
3学期	陸上競技	陸上競技 1)投擲種目 2)跳躍種目 3)持久走 ①4.5～6km 走 ②インターバル走	a:各技能のコツを理解し、自らの体で実践を繰り返して身に付けている b:より良い記録を出すためにどうすればよいか考え、言語化できるようになる c:計測にあたって進んで審判や記録係に取り組んだり、準備や片付け、整地に取り組むことだできる。	計測 計測 計測	振り返りシート	観察 振り返りシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度